



2013-2014 年
RI会長 ロン パートン
第 2640 地区ガバナー 久保治雄



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1788 回例会

平成 26 年 5 月 18 日(日)

家族例会 (ホテルニー淡路、大塚記念館)

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「我等の生業」

3. お客様紹介 会員のご家族 (26 名)

4. 出席報告

会員総数 50 名 出席者数名 47 名(会員 21 名)
出席率 42 % 前回修正出席率 62 %

5. 会長スピーチ

会長 小椋 孝一 君

皆さん、こんにちは。今日 18 日(日) 多数の会員及び会員の家族の皆さん家族例会に出席ご苦労様です。今日の企画を計画して頂きました親睦委員会の上野山委員長並びに、委員の皆さん、有り難うございます。これから、ここホテルニー淡路で昼食をして頂き、その後、徳島県の大塚記念館に行く予定になっています。怪異の皆さんは、日頃の仕事の事を忘れて、身体のリフレッシュをして頂き今日一日ゆっくりと過ごして頂きたいと思います。



6. 幹事報告

幹事 大谷 徹 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山西 RC 6 月 25 日(水) → 6 月 26 日(木)
18:00～ 加太海岸「あたらし屋」

○休会のお知らせ

和歌山西 RC 6 月 4 日(水)

○ガバナーよりのお知らせ

地区資金(地区分担金・地区大会登録料)返金について、4 月末現在全額・一部お支払いがないクラブが多数ございます。このままでは、不公平の排りを免れません。2013-2014 年度の地区資金(全額・一部)をお支払い頂いたクラブに全額返金する事にいたしました。

7. 閉会点鐘

次回例会

第 1788 回例会 平成 26 年 5 月 26 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4 F

地区研修協議会の報告

会長エレクト 山東 剛一 君

家族会の様子

上野山親睦活動委員長



お料理



集合写真



みんなで食事

四つのテスト 實行はこれにてしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 小椋 孝一

幹事: 大谷 徹

SAA: 重光 孝義

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

ポリオの障害を乗り越えた パラリンピック代表選手



パラリンピック選手、デニス・オグベさん。オグベさんは、子供のときポリオに感染しましたデニス・オグベさんは、まず右手で円盤を握ります。そして上半身を精一杯ひねったかと思うと反転。円盤はあつと言う間に、弾丸のように飛んでいきます。上半身の強さは、どの円盤投げの選手にとっても大切ですが、パラリンピック代表選手のオグベさんにとっては、強靱な上半身だけが頼りです。

オグベさんは、9歳の時にマラリアにかかり、治療先のナイジェリアの診療所でポリオウィルスに感染してしまいました。母親は、下半身が麻痺したオグベさんを抱きかかえて家に連れて帰りました。その後は、ほかの子供たちにかかわれ、つらい思いをしましたが、その経験をばねに努力を重ねた結果、自力で歩けるまでに回復しました。しかし今でも、左足は麻痺したままです。今は、米国市民であるオグベさんは、円盤投げと砲丸投げで国内身障者記録を持っています。練習に励む傍ら、大学院で経営管理修士号（MBA）も取得しました。現在は、国連財団の親善大使として、子供たちの予防接種推進に力を入れています。

「私がしていることが、同じような境遇にいる人たちの励みになればと願っています」と語るオグベさん。「ザ・ロータリアン」誌は昨年10月24日、ロータリーの世界ポリオデー行事で講演をするためにシカゴを訪れたオグベさんに、お話を伺いました。

ポリオと闘った子供時代について、オグベさんは、ナイジェリアでは、障害者は社会から見放される事がよくあります。私の子供時代は、ポリオ患者がバス停や街頭など、あちこちで物乞いをしていました。しかし私の父は、息子にそれよりもっとよい人生を送らせようと、学校へ行く機会を与えてくれたんです。ナイジェリアでは、教育があまり重視されておらず、弱肉強食の社会でした。それに対して父は、私が教育を受けて、障害にとらわれず、能力を伸すように勧めてくれたのです。また、オグベがスポーツに関心持ったのは、学校時代、体育が嫌いでした。テニス、棒高跳び、バスケットボールなどを試してみましたが、ビッコを引かなければ歩けない私にとっては無理でした。当時、

障害者が参加できるスポーツと言えば、砲丸投げ、槍投げ、重量挙げ、短距離走だけでしたが、ちゃんとした車椅子が買えなかったので、短距離走も無理でした。そこで私は、自動車修理工場から鉄棒をもらってきて、槍投げの真似を始めました。練習を重ねるうちに競技会に出るようになり、2000年のシドニー・パラリンピックには、槍投げでナイジェリアの代表選手として出場しました。その時、米国の陸上競技のコーチが私に目をつけ、米国の大学から奨学金がもらえよう手配してくれました。在学中は、学業とトレーニングのほかに、5カ所でアルバイトをしながら生活しました。ポリオに感染してから、スポーツで目標を立て、負けず嫌いの性格を生かして、その目標に向かって努力したことが、私の人生のカギとなったと思います。負けず嫌いの性格は、ポリオを克服する上でどのように役立ったかという問いには、オグベさんは、私はこれまで、本当にたくさんの人たちに支えられてきました。いろいろなことを達成できたのも、犠牲を払ってまで力を貸してくれたその人たちのおかげです。父はよく「肝心なのは、スタートじゃなくゴールだよ」と言っていました。私の人生のゴールはまだはるか先ですが、たどり着いたら、これまでお世話になった人たちと手を携えて、ゴールラインを駆け抜けられたらと思っています。ポリオの撲滅についても同じです。これまですでに長い道のりを進んできましたが、これからも、多くの人々の支援を得て粘り強く前進すれば、きっとゴールインできます。

2046年までに

世界の飢餓をなくすには？

世界有数の投資家・慈善家、ウォーレン・バフェット氏を父に持つ、ハワード・バフェット氏。「世界に何か貢献するために」と10億ドルを投じて、2006年から40年間で世界の飢餓をなくすという挑戦を始めました。2012年にさらに資金を投じ、また良好な投資収益のおかげで、現在の活動資金は30億ドルに。バフェット氏は、イリノイ州で農業も営み、一年の半分を農業にあて、残りの時間をハワード・G・バフェット財団の運営に注いでいます。バフェット氏は、これまで「国連世界食糧計画（WFP）」と協力したプログラムでWFPが生産物を必ず購入すると保証した上で、農家の人びとにビジネススキルや生産性を高めるための手法を教えました。買ってもらえる保証があるので、農家の人びとも安心して参加でき、またWFPが購入した作物は学校の給食プログラムや救援プロジェクトに活用できます。既に半数近くの農家がWFP以外の団体とも取引するようになっており、ほとんどの農家が生産物の販売で生計を立てられるようになります。中米の4カ国、5万軒の農家が貧困状態から解放される見込みです。

